

## おすいのうさま、など

(流星とは無関係な話です)

斉藤和子

祖母は 1901 年生まれ、ハリー彗星も記憶にあった、今年 2 回目の還暦となる。祖母は北斗七星を「おすいのうさま」と言った。φ星を入れて、野菜やめん類をゆであげる柄つきのたて長のざる、「すいのう」と見立てたようだ。祖母以外の人と言うのを聞いたことがなく、野尻抱影氏の「日本星名辞典」にもない。祖母は埼玉県秩父地方に住んだが、若いころ短期間神奈川県川崎市に居留したらしい。行儀作法をしこまれたらしいが、その時の知識だろうか、全く無関係か。川崎市なら野尻氏の地盤だろうから、もらすはずはないと思うが。

日本星名辞典を読んでいるうちに、すばるを「すいのうぼし」と言う地方があり、それがなんと秩父地方だと知った。いくら天文に無関心な祖母でも、すばると北斗七星をまちがえはしないだろうし、きっと祖母より年長の人々が言いならい、祖母の年代の人で消えた名前じゃないだろうか。

小学 2 年だったと思うが、国語の教科書に「おおくまぼし」というのがあった。ロシアの伝説の、かんぼつの年、孝行娘の木ひしゃくが最終的に金のひしゃくとなり、大きな宝石が 7 つ、空に昇りひしゃくの形になった。今で言う「おおくまぼし」です。という話。伝説そのものは良いのだが、なぜ「おおくまぼし」という題にしたのか。ひしゃくがなぜおおくまなのか、説明が全くない。「おおくまぼし」という名はこの教科書でしか知らない。それも本文中には全く出て来ず、最終行にあるのみである。いいかげんな天文知識のお役人がテキストにつけた題だろうと、長年思っていた。

日本星名辞典に「東北のマタギ地区の先生が北斗七星の名を神話から〈熊ぼし〉として知らせてきたのに驚いたことがある」とある。この「先生」という人がそれなりの権力者だったのか、教科書会社の人か「これは良い！」と思ったのか、未だ不明だが、この教科書以外「おおくまぼし」という名を知らない。出典をご存知の人、ぜひ教えてほしい。

日本星名辞典は 1973 年発行だが、その 2～3 年前に天文雑誌で「秩父地方ではかんむり座のことを『くびかざりぼし』と言う。桔梗姫の首飾りである」と読んだ気がする。仲の良い(今も付き合っている)女の子に「くびかざりぼし」って知っている?とたずねると「聞いたことある。どんな星かは知らないけど」。その子と私の家とは 1km しか離れていない。

どのような差があるのか。(無関係だが、飼い猫にききょう姫と名付けたことがある。すごみのある美猫。)